

2025年日本国際博覧会 事後調査報告書

(令和5年12月、令和6年2月)

【工事着手前（舞洲）】

(令和5年10月～令和6年9月)

【建設工事中・その2】

[鳥類の飛来状況(夢洲・舞洲)]

令和6年12月

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

目 次

1. 事業者の氏名及び住所	1
2. 対象事業の概要	1
2.1 対象事業の名称	1
2.2 対象事業の内容	1
(1) 事業計画地の位置	1
(2) 事業計画の概要	3
3. 対象事業の実施状況	5
4. 対象事業に係る事後調査の項目及び手法	6
5. 対象事業に係る事後調査の結果	10
5.1 工事着手前調査の結果	10
(1) 舞洲万博 P&R 駐車場及びその周辺	10
① 陸域動物（哺乳類（重要な種）の生息状況、鳥類の飛来状況）	10
5.2 建設工事中の事後調査結果	16
(1) 万博会場及びその周辺、舞洲万博 P&R 駐車場	16
① 陸域動物（鳥類の飛来状況）	16
6. 事後調査結果の評価	22
6.1 工事着手前調査	22
(1) 舞洲万博 P&R 駐車場	22
① 陸域動物	22
6.2 建設工事中の事後調査	24
(1) 万博会場及びその周辺	24
① 陸域動物（鳥類の飛来状況）	24
(2) 舞洲万博 P&R 駐車場	27
① 陸域動物（鳥類の飛来状況）	27
7. 環境保全のために講じた措置	29
7.1 建設工事中の環境保全のための措置とその履行状況（抜粋）	29
7.2 履行状況写真	32
8. 市長意見及びその履行状況	33
8.1 市長意見に対する事業者の見解及びその履行状況（抜粋）	33
8.2 鳥類への配慮状況	34

1. 事業者の氏名及び住所

名 称：公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会

代表者：会長 十倉雅和

所在地：大阪市住之江区南港北一丁目 14 番 16 号

2. 対象事業の概要

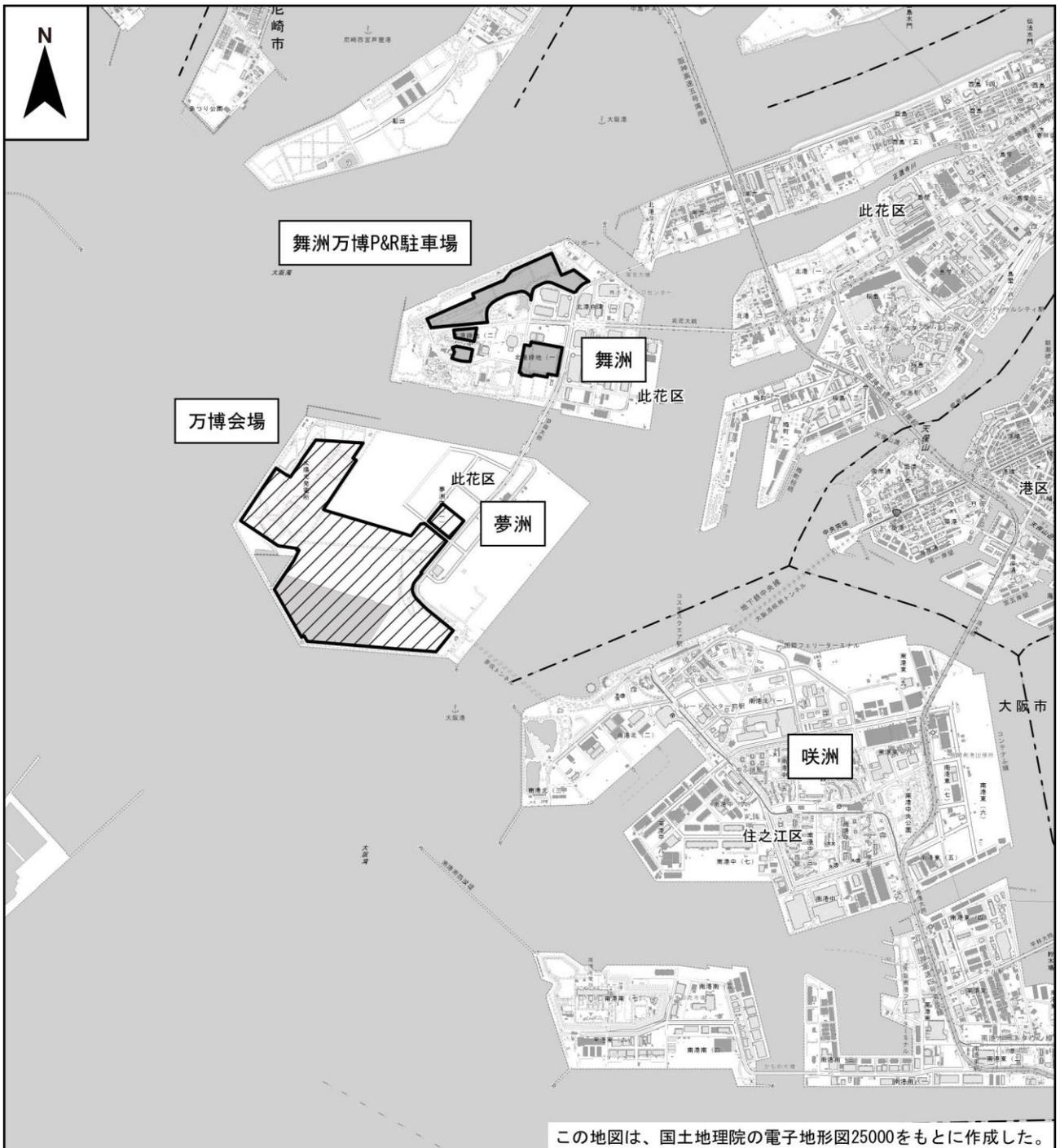
2.1 対象事業の名称

2025 年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

2.2 対象事業の内容

(1) 事業計画地の位置

大阪・関西万博会場（以下、「万博会場」という。）及び舞洲万博 P&R 駐車場の位置図は、図 2.1 に示すとおりである。万博会場は、大阪市の臨海部にある埋立地（大阪市此花区夢洲）に位置し、舞洲万博 P&R 駐車場は、その夢洲の北側の埋立地（大阪市此花区舞洲）に位置している。



凡例

-  万博会場
-  舞洲万博P&R駐車場
-  市区界

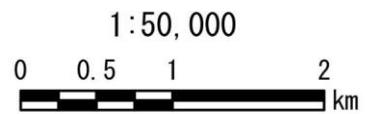


図 2.1 事業計画地の位置図 (概要)

(2) 事業計画の概要

事業の目的及び内容は表 2.1 に、会場配置計画は図 2.2 に示すとおりである。

表 2.1 事業の目的及び内容

目 的	<p>本事業は、2025（令和 7）年に大阪府大阪市において、国際博覧会条約に基づく国際博覧会を開催するものである。</p> <p>大阪・関西万博のテーマは、『いのち輝く未来社会のデザイン』である。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、人間一人一人が、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を、国際社会が共創していくことを推し進めるものである。</p> <p>言い換えれば、大阪・関西万博は、格差や対立の拡大といった新たな社会課題や、AI やバイオテクノロジー等の科学技術の発展、その結果としての長寿命化といった変化に直面する中で、参加者一人一人に対し、自らにとって「幸福な生き方とは何か」を正面から問う、初めての万博になる。</p> <p>近年、人々の価値観や生き方がますます多様化するとともに、技術革新によって誰もがこれまで想像しえなかった量の情報にアクセスし、やりとりを行うことが可能となった。このような進展を踏まえ、大阪・関西万博では、世界の叡智とベストプラクティスを大阪・関西地域に集約し、多様な価値観を踏まえた上での諸課題の解決策を提示していく。</p>
位 置	此花区夢洲（万博会場）、此花区舞洲（舞洲万博 P&R 駐車場）
面 積	万博会場：約 159ha、舞洲万博 P&R 駐車場：約 31ha（約 7,000 台想定）
開催期間（予定）	2025（令和 7）年 4 月 13 日から 2025（令和 7）年 10 月 13 日まで
開催時間（予定）	午前 9 時から午後 10 時まで
想定入場者数	約 2,820 万人
施設計画	参加国・企業パビリオン、日本館、自治体館、テーマ館、催事ホール、営業施設（物販及び飲食店舗）、エントランス施設、管理施設 等
その他施設	広場、インフラ整備（電気、ガス、通信、上水、雨水、汚水、空調用冷水）、緑地等
輸送計画	大阪メトロ中央線（北港テクノポート線）が全体の約 57%、空港や主要駅からのシャトルバスが約 13%、そのほかの自家用車・団体バス・タクシー等が約 30%の分担率を想定 [大阪・関西万博 来場者輸送具体方針（アクションプラン）第 4 版参照（2024（令和 6）年 7 月 19 日公表）]

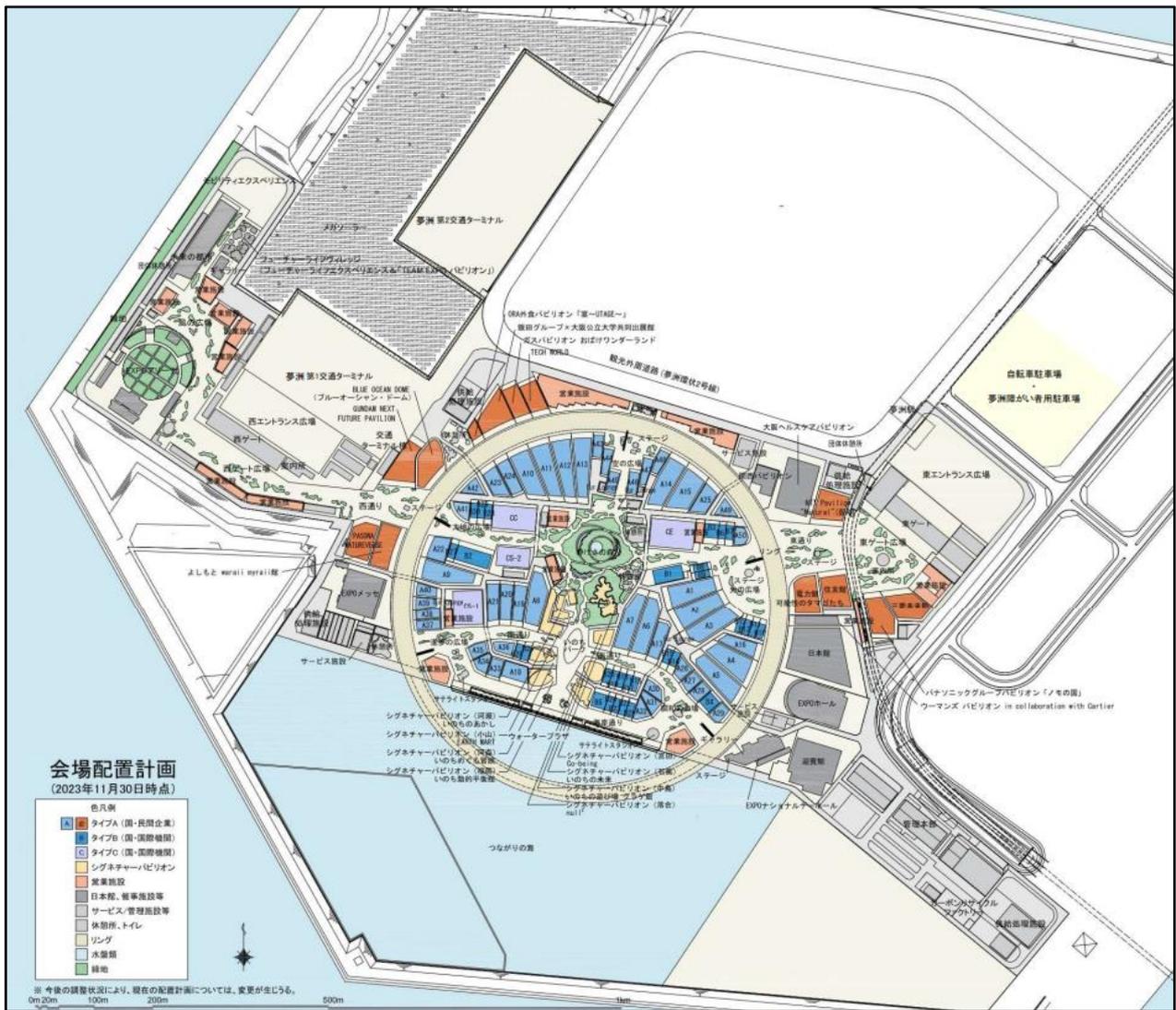


図 2.2 会場配置計画

※この図は、環境影響評価における会場配置計画を示す。

3. 対象事業の実施状況

夢洲における会場整備は、大阪市による埋立・盛土工事が完了した部分から着手し、万博会場の工事については、2022（令和4）年10月から着手した。

環境影響評価書（以下、「評価書」という。）及び現時点の工事の全体工程を表3.1及び表3.2に示す。

2022（令和4）年度は、盛土、整地等の造成工事及び埋設管整備等のインフラ工事を実施した。

2023（令和5）年度は、前記工事を引き続き実施する他、大屋根リングの基礎や一部のパビリオン等の建設工事を実施した。

2024（令和6）年度についても、前記工事を引き続き実施する他、大屋根リングの建設や各パビリオン、営業施設等の建築工事を実施した。

また、舞洲における舞洲万博P&R駐車場の工事においては、2024（令和6）年4月から着手し、整地等の造成及び舗装、設備設置工事等を実施した。

表 3.1 万博会場の工事工程

工事内容	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度
造成・インフラ工事	— (評価書工事予定) — (工事实績)				
パビリオン等建築工事		— (評価書工事予定) — (工事实績)			
開催・供用期間				— (評価書工事予定)	
撤去工事					— (評価書工事予定)

— : 評価書工事予定

— : 工事实績

⋮ : 今回の事後調査報告範囲（建設工事中（鳥類の飛来状況））

表 3.2 舞洲万博P&R駐車場の工事工程

工事内容	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度
敷均し・敷地造成工事			— (評価書工事予定) — (工事实績)		
建築・設備設置工事			— (評価書工事予定) — (工事实績)		
開催・供用期間				— (評価書工事予定)	
撤去工事					— (評価書工事予定)

— : 評価書工事予定

— : 工事实績

⋮ : 今回の事後調査報告範囲

（工事着手前調査（哺乳類（重要な種）の生息状況・鳥類の飛来状況）・建設工事中（鳥類の飛来状況））

※工事工程はいずれも現時点の想定であり、今後変更の可能性がある。

4. 対象事業に係る事後調査の項目及び手法

事後調査は、本事業の実施が環境に及ぼす影響を把握し、評価の指針に照らして検証するとともに、必要に応じて適切な環境保全措置を講じることなどにより、周辺地域の環境保全を図ることを目的としている。本事後調査は、準備書に関する住民からの意見等を踏まえて実施する工事着手前調査（陸域動物）及び建設工事中に実施する調査を事後調査計画（2022（令和4）年6月策定）に基づき実施したものである。

事後調査計画書にて策定した工事着手前及び建設工事中の調査内容は表4.1及び表4.2に、陸域動物の調査地点・範囲は図4.1に、調査方法詳細は表4.3に示すとおりである。

なお、表中の網掛けしている調査項目については、今回の事後調査報告の対象外とする。

表 4.1 事後調査内容（工事着手前(舞洲)） 事後調査計画書より

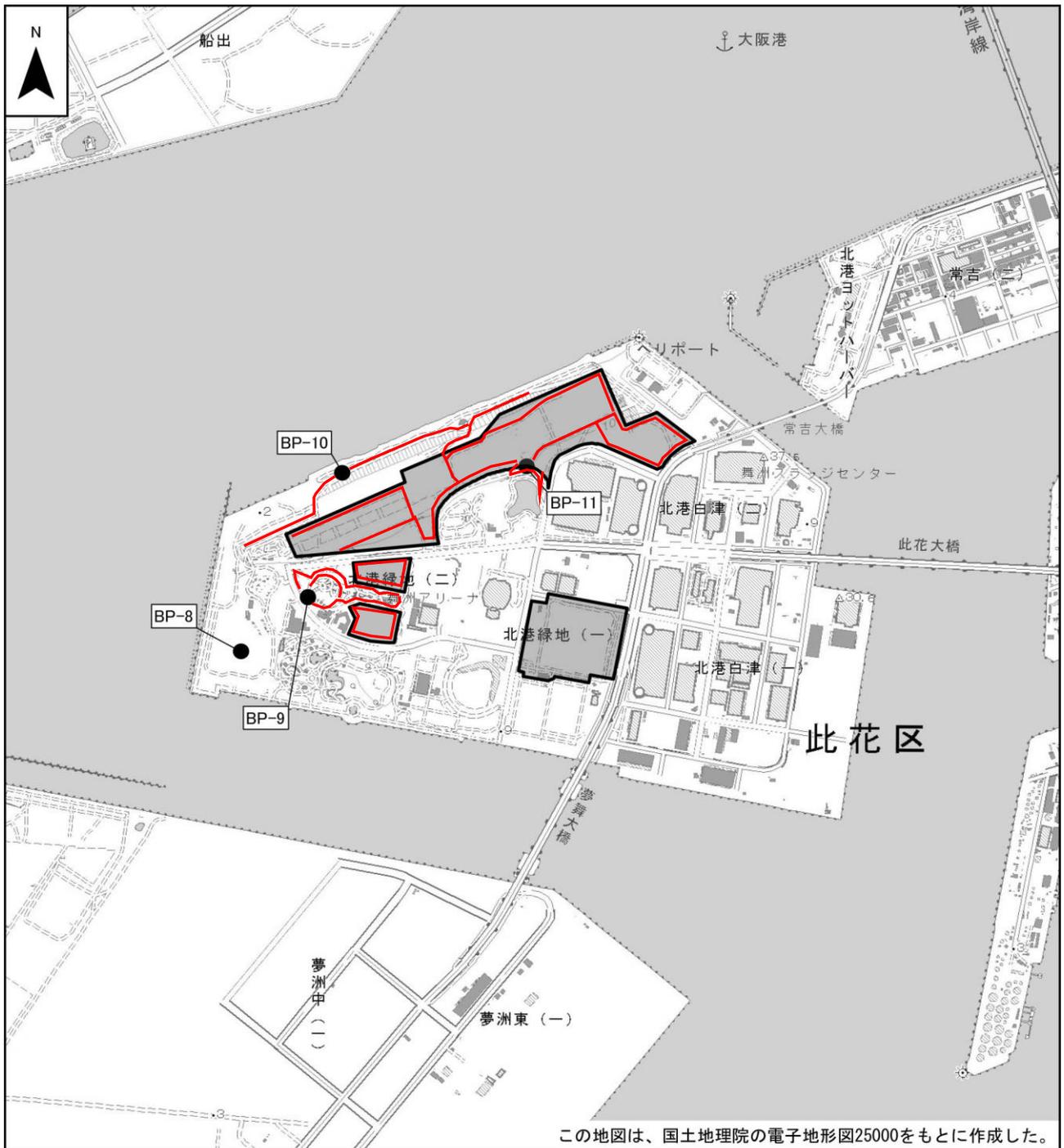
調査項目		調査手法	調査地点・範囲	調査時期・頻度	評価指針
陸域動物 ・ 陸域植物	哺乳類（重要種） の生息状況	任意調査	舞洲万博 P&R 駐車場及びその周辺	工事着手前に 1回	環境保全の観点から、適切な配慮がなされていること
	鳥類の飛来状況	定点調査、 任意調査	【定点調査】 ・万博会場：7地点 ・舞洲万博 P&R 駐車場：4地点		
	昆虫類（重要種） の生息状況	任意調査	万博会場及びその周辺		
	植物（重要種）	任意調査			

（参考）工事着手前調査(夢洲)：2022(令和4)年8月、10月実施

表 4.2 事後調査内容（建設工事中） 事後調査計画書より

調査項目		調査手法	調査地点・範囲	調査時期・頻度	評価指針
建設機械・ 工事関連車 両の稼働状 況	種類・型式別 の稼働台数・ 稼働時間等	工事作業日報の整理 等による	万博会場及び舞洲万博 P&R 駐車場	建設工事期間中	環境保全の観点から、 環境負荷の低減に配慮 された工程になっている こと
騒音・ 振動	建設 作業 騒音・ 振動	<ul style="list-style-type: none"> 騒音：「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月 環境庁告示第64号）に定める測定方法で測定する。測定高さは地上1.2mとする。 振動：「振動規制法施行規則」に定める測定方法で測定する。 	敷地境界地点 万博会場及び舞洲万博 P&R 駐車場 各1地点	<ul style="list-style-type: none"> 建設工事期間中について、影響最大月に1日 工事時間帯に測定 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音 特定建設作業に係る騒音の規制基準値（85デシベル）以下であること 振動 特定建設作業に係る振動の規制基準値（75デシベル）以下であること
	道路 交通 騒音・ 振動	<ul style="list-style-type: none"> 等価騒音レベル (L_{Aeq}) 振動レベルの80%レンジ上端値 (L_{10}) 交通量 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音：「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月 環境庁告示第64号）に定める測定方法で測定する。測定高さは地上1.2mとする。 振動：「振動規制法施行規則」に定める測定方法で測定する。 交通量：交通量を目視により計数する。 	工事車両の主要通行ル ート5地点 (交通 No. 1~No. 3、交通 No. 5~No. 6)	<ul style="list-style-type: none"> 建設工事期間中について、影響最大月に1日 日中（工事関連車両通行時間帯）に測定
廃棄物・ 残土	種類別発生 量・排出量及 びリサイクル 量等	工事作業日報の整理 等による	万博会場及び舞洲万博 P&R 駐車場	建設工事期間中	環境保全の観点から、 発生量・排出量の抑制 及び適切なリサイクル ・リユース・処理が なされていること
陸域動物	鳥類の飛来状 況	定点調査、 任意調査	万博会場及びその周辺 【定点調査】 ・万博会場： 7地点 ・舞洲万博 P&R 駐車場： 4地点	建設工事期間中 の毎年4月から 7月に各月1回	環境保全の観点から、 適切な配慮がなされて いること

注：工事最盛期の時期は、工事の進捗状況等を踏まえて最終的に決定する。



凡 例

- 舞洲万博P&R駐車場
- 鳥類定点調査地点 (BP-8~11)
- 哺乳類任意調査ルート

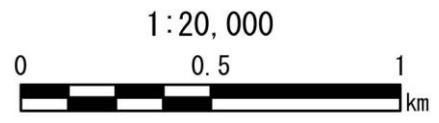
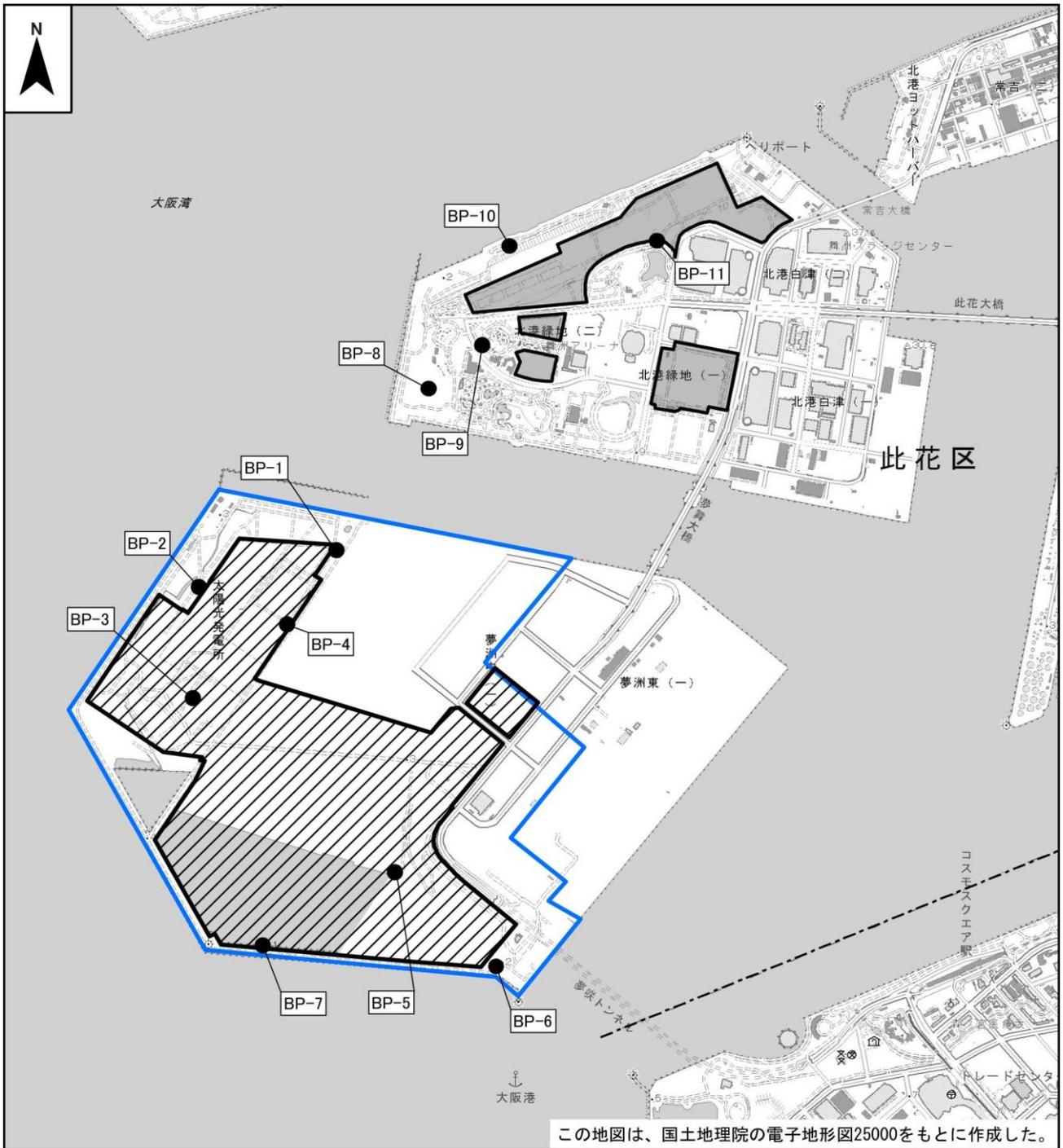


図 4.1(1) 調査地点・範囲 (舞洲 陸域動物)



凡 例

-  万博会場
-  任意調査範囲
-  舞洲万博P&R駐車場
-  市区界
-  鳥類定点調査地点 (BP-1~7)

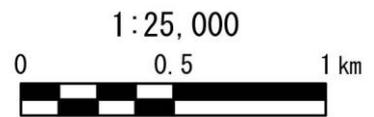


図 4.1(2) 調査地点・範囲 (夢洲 陸域動物)

表 4.3 調査方法詳細

調査項目	調査方法	内容
哺乳類 (カヤネズミ)	任意調査	調査範囲を任意に踏査し、哺乳類のフィールドサイン(足跡、糞、死体、食痕等の生息痕跡)及び個体の直接観察により種名を記録する。 主な対象をカヤネズミとする。
鳥類	定点調査	調査地点において 30 分程度の間、倍率 20～50 倍程度の望遠鏡や倍率 8～10 倍程度の双眼鏡を用いて、目視及び鳴き声等により確認した鳥類の種名等を記録する。
	任意調査	調査範囲内を任意に踏査し、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡を用いて、目視及び鳴き声等により確認した鳥類の種名等を記録する。

5. 対象事業に係る事後調査の結果

5.1 工事着手前調査の結果

(1) 舞洲万博 P&R 駐車場及びその周辺

① 陸域動物（哺乳類（重要な種）の生息状況、鳥類の飛来状況）

(a) 哺乳類（カヤネズミ）

a. 調査内容

哺乳類（カヤネズミ（重要な種））は、準備書作成時に舞洲万博 P&R 駐車場及びその周辺において確認した陸域動物であり、舞洲での工事着手前における生息状況を把握するため、現地調査を実施した。調査内容は表 4.1、調査地点・範囲は図 4.1(1)、調査方法詳細は表 4.3 に示すとおりである。

なお、調査時期については、カヤネズミの特性や繁殖時期等を踏まえるとともに、有識者からの助言も参考に、繁殖後の球巣を中心としたフィールドサインの確認を行った。

b. 調査日

2023(令和 5)年 12 月 7 日

c. 調査結果

現地調査により、舞洲万博 P&R 駐車場のススキ及びチガヤの草地において、4 か所で球巣を確認した。

d. 重要な種の確認状況

ア. 選定根拠

評価書時に調査範囲で確認された陸域動物について、表 5.1 の選定根拠に基づき、学術上または希少性の観点から重要な種を抽出し、工事着手前調査の対象種とした。

表 5.1 重要な種の選定根拠

区分	重要な種選定基準	カテゴリー
①	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号） 大阪府文化財保護条例（昭和 44 年大阪府条例第 5 号） 大阪市文化財保護条例（平成 11 年大阪市条例第 5 号）	国特天：国指定特別天然記念物
		国天：国指定天然記念物
		府天：大阪府指定天然記念物
		市天：大阪市指定天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 （平成 4 年法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種
		特別：特別国内希少種動植物種
		国際：国際希少野生動植物種
		緊急：緊急指定種
③	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）	EX：絶滅
		CR：絶滅危惧 I A 類
		EN：絶滅危惧 I B 類
		CR+EN：絶滅危惧 I 類
		VU：絶滅危惧 II 類
		NT：準絶滅危惧
		DD：情報不足
LP：絶滅のおそれのある地域個体群		
④	「近畿地区・鳥類レッドデータブック —絶滅危惧種判定システムの開発—」（京都大学学術出版会、平成 14 年） ※近畿地方全体におけるカテゴリーを示す。	繁殖：繁殖個体群
		越冬：越冬個体群
		通過：通過個体群
		夏季：夏季滞在個体群
		1：危機的絶滅危惧
		2：絶滅危惧
		3：準絶滅危惧
4：要注目		
⑤	「大阪府レッドリスト 2014」（大阪府、平成 26 年）	EX：絶滅
		CR+EN：絶滅危惧 I 類
		VU：絶滅危惧 II 類
		NT：準絶滅危惧
		DD：情報不足

イ. 現地調査状況

現地調査で確認された重要な種の確認状況に記載している確認位置を示す用語の定義は、表 5.2 に示すとおりである。

確認状況の概要は表 5.3 に示すとおりである。なお、重要な種の保護の観点から確認位置図は掲載しないこととした。

表 5.2 確認位置を示す用語の定義

用語	定義
草地	路傍・空地雑草群落や公園（樹林地以外）等、草本類が優占する環境
裸地（砂れき地）	造成地等、植生の乏しい環境
人工構造物	建物、道路、堤防等の構造物
開放水面	抽水植物や沈水植物等による植生が成立していない大規模な水域・水面
水際部	大規模な開放水面の周囲に分布する、水域と陸域の境界線及びその付近
湿地	抽水植物や沈水植物等が生育している、比較的小規模な水域及び湿生植物群落が成立している範囲

表 5.3 哺乳類の重要な種の確認状況の概要

No.	種名（和名）	選定根拠		確認位置		確認状況
		全国	近畿 大阪	舞洲 駐車場	舞洲 駐車場外	
1	カヤネズミ		NT	○	—	舞洲駐車場のススキ及びチガヤの草地において4か所で球巣が確認された。

注：1. 選定根拠の記載は表 5.1 の選定基準に示すとおりである。

2. 「○」は確認されたこと「—」は確認されなかったことを示す。

3. 「舞洲駐車場」は、舞洲万博 P&R 駐車場である。

(b) 鳥類

a. 調査内容

舞洲万博 P&R 駐車場における鳥類の飛来状況を把握するため、現地調査を実施した。調査内容は表 4.1、調査地点・範囲は図 4.1(1)、調査方法詳細は表 4.3 に示すとおりである。

b. 調査日

2024（令和 6）年 2 月 21 日

c. 調査結果

ア. 鳥類相の状況

鳥類の飛来状況（鳥類相）の調査結果（舞洲）は、表 5.4 に示すとおりである。
現地調査で確認された鳥類は 9 目 18 科 30 種であった。

表 5.4 鳥類相の調査結果（舞洲）

No.	目名	科名	種名（和名）	渡り区分
1	カモ	カモ	オカヨシガモ	冬鳥
2			カルガモ	留鳥
3			ハシビロガモ	冬鳥
4			コガモ	冬鳥
5			ホシハジロ	冬鳥
6			キンクロハジロ	冬鳥
7	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	冬鳥
8	ハト	ハト	キジバト	留鳥
9	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥
10	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥
11			コサギ	留鳥
12	ツル	クイナ	オオバン	留鳥
13	チドリ	カモメ	ユリカモメ	冬鳥
14			セグロカモメ	冬鳥
15	タカ	タカ	トビ	留鳥
16	スズメ	モズ	モズ	留鳥
17		カラス	ハシボソガラス	留鳥
18			ハシブトガラス	留鳥
19		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥
20		ウグイス	ウグイス	留鳥
21		ムクドリ	ムクドリ	留鳥
22		ヒタキ	ツグミ	冬鳥
23			ジョウビタキ	冬鳥
24			イソヒヨドリ	留鳥
25		スズメ	スズメ	留鳥
26		セキレイ	セグロセキレイ	留鳥
27			タヒバリ	冬鳥
28		アトリ	カワラヒワ	留鳥
29		ホオジロ	アオジ	冬鳥
30	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	移入種
-	9目18科30種			-

注：1. 分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。

2. 渡り区分は「大阪府鳥類目録2016」（（財）日本野鳥の会大阪支部、平成28年）に準拠した。

d. 重要な種の確認状況

ア. 選定根拠

調査地点で確認された鳥類について、表 5.1 の選定根拠に基づき、学術上または希少性の観点から重要な種を抽出した。

イ. 現地調査状況

現地調査で確認された重要な種は3種であった。確認状況の概要は表 5.5 に示すとおりである。なお、重要な種の保護の観点から確認位置図は掲載しないこととした。

表 5.5 鳥類の重要な種の確認状況（舞洲）の概要

No.	種名（和名）	選定根拠		確認位置		確認状況
		全国	近畿 大阪	舞洲 駐車場	舞洲 駐車場外	
1	カンムリカイツブリ	—	繁殖:3	—	○	舞洲北側の海上に浮かぶ2例が確認された。
2	オオバン	—	繁殖:3	—	○	舞洲駐車場外のため池で8例、舞洲北側の海上で2例が確認された。
3	アオジ	—	繁殖:3	—	○	舞洲駐車場外の緑地帯で1例が確認された。

- 注：1. 選定根拠の記載は表 5.1 の選定基準に示すとおりである。
2. 「○」は確認されたこと「—」は確認されなかったことを示す。
3. 「舞洲駐車場」は、舞洲万博P&R駐車場である。
4. 「舞洲駐車場外」は、舞洲近傍海域も含む。

5.2 建設工事中の事後調査結果

(1) 万博会場及びその周辺、舞洲万博 P&R 駐車場

① 陸域動物（鳥類の飛来状況）

(a) 調査内容

夢洲の万博会場及びその周辺と、舞洲万博 P&R 駐車場における鳥類の飛来状況を把握するため、現地調査を実施した。調査内容は表 4.2、調査地点・範囲は図 4.1(1)、図 4.1(2)、調査方法詳細は表 4.3 に示すとおりである。

(b) 調査日、調査方法

調査日及び調査方法は、表 5.6 に示すとおりである。

表 5.6 調査日及び調査方法

調査範囲	調査対象期間		調査方法
万博会場 及びその周辺	春季	2024（令和6）年4月22日～23日	定点調査 任意調査
	春季	2024（令和6）年5月16日～17日	
	夏季	2024（令和6）年6月13日～14日	
	夏季	2024（令和6）年7月24日～25日	
舞洲万博 P&R 駐車場	春季	2024（令和6）年4月22日	定点調査
	春季	2024（令和6）年5月16日	
	夏季	2024（令和6）年6月13日	
	夏季	2024（令和6）年7月24日	

(c) 調査結果

a. 鳥類相の状況

ア. 夢洲

鳥類の飛来状況の調査結果（鳥類相）は、表 5.7(1)に示すとおりである。

現地調査で確認された鳥類は、10目26科62種であった。

表 5.7(1) 鳥類相の調査結果 (夢洲)

No.	目名	科名	種名 (和名)	渡り区分	
1	カモ	カモ	ツクシガモ	冬鳥	
2			オカヨシガモ	冬鳥	
3			ヨシガモ	冬鳥	
4			ヒドリガモ	冬鳥	
5			マガモ	冬鳥	
6			カルガモ	留鳥	
7			ハシビロガモ	冬鳥	
8			オナガガモ	冬鳥	
9			コガモ	冬鳥	
10			ホシハジロ	冬鳥	
11			キンクロハジロ	冬鳥	
12			スズガモ	冬鳥	
13	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	
14	ハト	ハト	キジバト	留鳥	
15	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	
16	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	
17			コサギ	留鳥	
18		トキ	ヘラサギ	迷鳥	
19	ツル	クイナ	バン	留鳥	
20			オオバン	留鳥	
21	チドリ	チドリ	ケリ	留鳥	
22			ムナグロ	旅鳥	
23			コチドリ	留鳥	
24			シロチドリ	留鳥	
25			メダイチドリ	旅鳥	
26			オオメダイチドリ	旅鳥	
27			セイタカシギ	セイタカシギ	旅鳥
28				シギ	オオソリハシシギ
29			チュウシャクシギ		旅鳥
30			アカアシシギ		旅鳥
31			アオアシシギ		旅鳥
32		キアシシギ	旅鳥		
33		ソリハシシギ	旅鳥		
34		イソシギ	留鳥		
35		キョウジョシギ	旅鳥		
36		トウネン	旅鳥		
37		ウズラシギ	旅鳥		
38		サルハマシギ	旅鳥		
39		ハマシギ	冬鳥		
40		アカエリヒレアシシギ	旅鳥		
41		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	
42			ウミネコ	留鳥	
43			セグロカモメ	冬鳥	
44			コアジサシ	夏鳥	
45		タカ	ミサゴ	ミサゴ	留鳥
46			タカ	トビ	留鳥
47		ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥
48		スズメ	モズ	モズ	留鳥
49			カラス	ハシボソガラス	留鳥
50				ハシブトガラス	留鳥
51			ヒバリ	ヒバリ	留鳥
52			ツバメ	ツバメ	夏鳥
53			ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥
54			ヨシキリ	オオヨシキリ	夏鳥
55	セッカ		セッカ	留鳥	
56	ムクドリ		ムクドリ	留鳥	
57	ヒタキ		ツグミ	冬鳥	
58	スズメ		スズメ	留鳥	
59	セキレイ		ハクセキレイ	留鳥	
60			タヒバリ	冬鳥	
61	アトリ		カワラヒワ	留鳥	
62	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	移入種	
-	10目26科62種			-	

注：1. 分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、平成24年)に準拠した。

2. 渡り区分は「大阪府鳥類目録2016」((財)日本野鳥の会大阪支部、平成28年)に準拠した。

イ. 舞洲

鳥類の飛来状況の調査結果（鳥類相）は、表 5.7(2)に示すとおりである。
 現地調査で確認された鳥類は、10目25科31種であった。

表 5.7(2) 鳥類相の調査結果（舞洲）

No.	目名	科名	種名（和名）	渡り区分	
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	
3	ハト	ハト	キジバト	留鳥	
4	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	
5	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	
6	ツル	クイナ	オオバン	留鳥	
7	チドリ	チドリ	ケリ	留鳥	
8			コチドリ	留鳥	
9		シギ	チュウシャクシギ	旅鳥	
10			アオアシシギ	旅鳥	
11			キアシシギ	旅鳥	
12		カモメ	ウミネコ	留鳥	
13			コアジサシ	夏鳥	
14		タカ	ミサゴ	ミサゴ	留鳥
15		ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥
16		スズメ	カラス	ハシボソガラス	留鳥
17	ハシブトガラス			留鳥	
18	シジュウカラ		シジュウカラ	留鳥	
19	ツバメ		ツバメ	夏鳥	
20	ヒヨドリ		ヒヨドリ	留鳥	
21	ウグイス		ウグイス	留鳥	
22	ムシクイ		センダイムシクイ	夏鳥	
23	メジロ		メジロ	留鳥	
24	ヨシキリ		オオヨシキリ	夏鳥	
25	セッカ		セッカ	留鳥	
26	ムクドリ		ムクドリ	留鳥	
27	ヒタキ		ツグミ	冬鳥	
28	スズメ		スズメ	留鳥	
29	セキレイ		ハクセキレイ	留鳥	
30	アトリ	カワラヒワ	留鳥		
31	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	移入種	
-	10目25科31種			-	

注：1. 分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。
 2. 渡り区分は「大阪府鳥類目録2016」（（財）日本野鳥の会大阪支部、平成28年）に準拠した。

b. 重要な種の確認状況

ア. 選定根拠

調査範囲で確認された鳥類について、表 5.1 の選定根拠に基づき、学術上または希少性の観点から重要な種を抽出した。

イ. 現地調査状況

現地調査で確認された重要な種の確認状況に記載している確認位置を示す用語の定義は、表 5.2 に示すとおりである。

(ア) 夢洲

現地調査で確認された重要な種は 31 種であった。確認状況の概要は、表 5.8(1) 及び (2) に示すとおりである。なお、重要な種の保護の観点から確認位置図は掲載しないこととした。

表 5.8(1) 重要な種の確認状況の概要 (夢洲)

No	種名 (和名)	選定根拠		確認位置		確認状況
		全国	近畿 大阪	万博 会場	万博 会場外	
1	ツクシガモ	VU	越冬:2	○	○	万博会場の開放水面において 1 例、万博会場外の開放水面において 2 例が確認された。
2	ヨシガモ		越冬:3	○	-	万博会場の開放水面において 7 例が確認された。
3	マガモ		繁殖:3	○	○	万博会場の開放水面において 10 例、万博会場外の開放水面において 3 例が確認された。
4	ヘラサギ	DD		○	-	万博会場の開放水面において 1 例が確認された。
5	オオバン		繁殖:3	-	○	万博会場外の開放水面において 2 例が確認された。
6	ケリ	DD	NT	○	○	万博会場の裸地において 2 例、万博会場外の裸地及び人工構造物において 30 例が確認された。
7	ムナグロ		通過:3 VU	○	-	万博会場の裸地において 6 例が確認された。
8	コチドリ		繁殖:3 NT	○	○	万博会場の裸地及び水際部やそれらの上空において 46 例、万博会場外の裸地及び水際部において 16 例が確認された。また、万博会場の砂れき地及び万博会場外の裸地において、営巣及び抱卵と思われる個体がそれぞれ 1 か所で確認された。
9	シロチドリ	VU	繁殖:3 VU	○	○	万博会場の裸地及びその上空や水際部において 81 例、万博会場外の裸地及び水際部において 4 例が確認された。また、万博会場の砂れき地において、抱卵中と思われる個体が 1 か所で確認された。
10	メダイチドリ	国際	通過:3 VU	○	-	万博会場の開放水面及び水際部において 62 例が確認された。
11	オオメダイチドリ	国際	通過:2 NT	○	-	万博会場の水際部において 3 例が確認された。
12	セイタカシギ	VU		○	-	万博会場の裸地及び水際部において 85 例が確認された。また、万博会場の水際部の計 10 か所で抱卵及び繁殖が確認された。
13	オオソリハシシギ	VU	通過:3 VU	○	-	万博会場の開放水面において 8 例が確認された。

- 注：1. 選定根拠の記載は表 5.1 の選定基準に示すとおりである。
 2. 「○」は確認されたこと「-」は確認されなかったことを示す。
 3. 「万博会場外」は、夢洲近傍海域も含む。

表 5.8(2) 重要な種の確認状況の概要（夢洲）

No	種名（和名）	選定根拠		確認位置		確認状況
		全国	近畿 大阪	万博 会場	万博 会場外	
14	チュウシヤクシギ		通過:3 NT	○	○	万博会場の裸地上空において4例、万博会場外の開放水面及びその上空において6例が確認された。
15	アカアシシギ	VU	通過:2 NT	○	—	万博会場の開放水面において1例が確認された。
16	アオアシシギ		通過:3 VU	○	—	万博会場の開放水面及び水際部において12例が確認された。
17	キアシシギ		通過:3 NT	○	—	万博会場の開放水面、水際部及び上空において46例が確認された。
18	ソリハシシギ		通過:3 VU	○	—	万博会場の裸地及び水際部において10例が確認された。
19	イソシギ		繁殖:2 NT	○	○	万博会場の裸地において2例、万博会場外の裸地において1例が確認された。
20	キョウジョシギ		通過:3 VU	○	—	万博会場の裸地及び水際部において10例が確認された。
21	トウネン		通過:3 NT	○	○	万博会場の裸地及び水際部において126例、万博会場外の裸地及び水際部において3例が確認された。
22	ウズラシギ		通過:3 VU	○	—	万博会場の水際部において2例が確認された。
23	サルハマシギ	国際	通過:2 NT	○	—	万博会場の水際部において1例が確認された。
24	ハマシギ	NT	越冬:3	○	—	万博会場の開放水面及び裸地やその水際部において1082例が確認された。
25	ウミネコ		繁殖:4	○	○	万博会場の開放水面やその上空及び裸地において4例、万博会場外の開放水面やその上空及び人工構造物において55例が確認された。
26	コアジサシ	VU	繁殖:2 CR+EN	○	○	万博会場の裸地及び水際部やその上空において851例、万博会場外の開放水面及び人工構造物やその上空において243例が確認された。また、万博会場の砂れき地において、抱卵中と思われる個体が6か所で確認された。
27	ミサゴ	NT	繁殖:2	—	○	万博会場外の開放水面上空及び人工構造物において3例が確認された。
28	チョウゲンボウ		越冬:3	○	○	万博会場の人工構造物及び草地上空において2例、万博会場外の草地上空及び裸地において2例が確認された。
29	ヒバリ		NT	○	○	万博会場の草地及び裸地やその上空において14例、万博会場外の草地及び裸地やその上空において13例が確認された。
30	オオヨシキリ		繁殖:3 NT	○	—	万博会場の草地において3例が確認された。
31	セッカ		NT	○	○	万博会場の草地及び裸地やその上空において16例、万博会場外の草地及び裸地やその上空において43例が確認された。また、万博会場外の草地において、営巣が2か所で確認された。

- 注：1. 選定根拠の記載は表 5.1 の選定基準に示すとおりである。
 2. 「○」は確認されたこと「—」は確認されなかったことを示す。
 3. 「万博会場外」は、夢洲近傍海域も含む。

(イ)舞洲

現地調査で確認された重要な種は13種であった。確認状況の概要は表 5.8(3)に示すとおりである。なお、重要な種の保護の観点から確認位置図は掲載しないこととした。

表 5.8(3) 重要な種の確認状況の概要 (舞洲)

No	種名 (和名)	選定根拠		確認位置		確認状況
		全国	近畿 大阪	舞洲 駐車場	舞洲 駐車場外	
1	オオバン		繁殖:3	-	○	舞洲駐車場外の開放水面において7例が確認された。
2	ケリ	DD	NT	○	○	舞洲駐車場の草地やその上空において4例、舞洲駐車場外の人工構造物において2例が確認された。
3	コチドリ		繁殖:3 NT	-	○	舞洲駐車場外の裸地において1例が確認された。
4	チュウシャクシギ		通過:3 NT	-	○	舞洲駐車場外の海岸沿いにおいて23例が確認された。
5	アオアシシギ		通過:3 VU	-	○	舞洲駐車場外の海岸沿いにおいて1例が確認された。
6	キアシシギ		通過:3 NT	-	○	舞洲駐車場外の海岸沿いにおいて1例が確認された。
7	ウミネコ		繁殖:4	-	○	舞洲駐車場外の開放水面上空や人工構造物において29例が確認された。
8	コアジサシ	VU	繁殖:2 CR+EN	-	○	舞洲駐車場外の開放水面上空において8例が確認された。
9	ミサゴ	NT	繁殖:2	-	○	舞洲駐車場外の開放水面上空において1例が確認された。
10	チョウゲンボウ		越冬:3	-	○	舞洲駐車場外の草地上空において1例が確認された。
11	センダイムシクイ		繁殖:3 NT	-	○	舞洲駐車場外の樹林において1例が確認された。
12	オオヨシキリ		繁殖:3 NT	-	○	舞洲駐車場外の樹林において1例が確認された。
13	セッカ		NT	-	○	舞洲駐車場外の草地において1例が確認された。

- 注：1. 選定根拠の記載は表 5.1 の選定基準に示すとおりである。
 2. 「○」は確認されたこと「-」は確認されなかったことを示す。
 3. 「舞洲駐車場」は舞洲万博 P&R 駐車場である。
 4. 「舞洲駐車場外」は、舞洲近傍海域も含む。

6. 事後調査結果の評価

6.1 工事着手前調査

(1) 舞洲万博 P&R 駐車場

① 陸域動物

舞洲万博 P&R 駐車場の工事着手前に実施した現地調査にて、生息が確認された陸域動物における重要な種は、哺乳類が1種（カヤネズミ）、鳥類が3種（カンムリカイツブリ、オオバン、アオジ）であった。鳥類の工事着手前調査結果と評価書との確認状況は表 6.1 に示すとおりである。

評価書では同時期の鳥類調査で、舞洲での定点調査において35種の鳥類の飛来があり、うち8種の重要な種が確認された。今回の調査においては、30種（うち3種が重要な種）の鳥類が確認され、重要な種はいずれも評価書の同時期に確認された種と同じであった。

調査結果を踏まえ、陸域動物については工事による影響を考慮し、以下のとおり、保全措置の実施に努め、可能な限り生息環境への影響の低減を図る。

- ・ 工事関係者による工事区域外への不要な立ち入りを禁止する。
 - ・ 騒音、振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。
 - ・ 夜間工事を行う場合には、工事を最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行う。
 - ・ 舞洲万博 P&R 駐車場での工事開始前の草刈りを行う際は、カヤネズミを周辺の生育可能な草地等に移動させるため、作業を複数回に分け、草地に向かって段階的に草刈りを実施する。
- 以上のことから、陸域動物における重要な種への配慮については問題ないと評価する。

表 6.1 工事着手前調査結果と評価書との確認状況（舞洲）

No.	目名	科名	種名（和名）	渡り区分	工事着手前		評価書	
					2024(令和6)年 2月	重要な種	2020(令和2)年 2月	重要な種
1	カモ	カモ	オカヨシガモ	冬鳥	9		4	
2			ヒドリガモ	冬鳥			9	
3			カルガモ	留鳥	9		10	
4			ハシビロガモ	冬鳥	15		11	
5			コガモ	冬鳥	1			
6			ホシハジロ	冬鳥	506		52	
7			キンクロハジロ	冬鳥	15			
8	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	冬鳥	2	●	1	●
9	ハト	ハト	キジバト	留鳥	3		14	
10	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	7		3	
11	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	1		1	
12			コサギ	留鳥	2			
13	ツル	クイナ	オオバン	留鳥	10	●	19	●
14	チドリ	シギ	ヤマシギ	冬鳥			1	●
15			イソシギ	留鳥			4	●
16		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	20			
17			セグロカモメ	冬鳥	13		3	
18	タカ	ミサゴ	ミサゴ	留鳥			2	●
19		タカ	トビ	留鳥	1		1	
20			ハイタカ	冬鳥			1	●
21	スズメ	モズ	モズ	留鳥	3		4	
22		カラス	ハシボソガラス	留鳥	2		1	
23			ハシブトガラス	留鳥	9		12	
24		ヒバリ	ヒバリ	留鳥			2	●
25		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	25		41	
26		ウグイス	ウグイス	留鳥	1		5	
27		メジロ	メジロ	留鳥			14	
28		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	50		6	
29		ヒタキ	シロハラ	冬鳥			8	
30			ツグミ	冬鳥	50		29	
31			ジョウビタキ	冬鳥	2		7	
32			イソヒヨドリ	留鳥	1			
33		スズメ	スズメ	留鳥	3		35	
34		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥			7	
35			セグロセキレイ	留鳥	1			
36			タヒバリ	冬鳥	6		1	
37		アトリ	カララヒワ	留鳥	2		23	
38			ベニマシコ	冬鳥			1	
39		ホオジロ	ホオジロ	留鳥			7	
40			アオジ	冬鳥	1	●	14	●
41	ハト	ハト	カララバト(ドバト)	移入種	100		71	
-	9目22科41種			-	9目18科30種		9目22科35種	

注：1. 分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。

2. 科、亜科、属、上種としたもののうち、他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。

3. 渡り区分は「大阪府鳥類目録2016」（(財)日本野鳥の会大阪支部、平成28年）に準拠した。

4. 表中の数字は、確認例数である。

6.2 建設工事中の事後調査

(1) 万博会場及びその周辺

① 陸域動物（鳥類の飛来状況）

事後調査結果（建設工事中・2024）と評価書との確認状況は表 6.2 に示すとおりである。

万博会場及びその周辺にて 2024（令和 6）年 4 月～7 月（春季～夏季）に実施した現地調査において、62 種の鳥類の飛来があり、うち 31 種の重要な種が確認された。評価書では同時期の調査で、万博会場及びその周辺にて 66 種の鳥類の飛来があり、うち 33 種の重要な種を確認していた。建設工事中に確認された重要な種では、31 種のうち 24 種が評価書の同時期調査と重複するとともに、5 種（ツクシガモ等）が評価書の他時期調査の重要な種と重複していた。また、チドリ科のオオメダイチドリ、シギ科のアカアシシギの 2 種が、事後調査において新たに確認された重要な種である。このことより、2024（令和 6）年の建設工事中においても、概ね同種の飛来があることが確認された。

2024（令和 6）年の事後調査により確認され、かつ種類が多かった種群はチドリ目であり、チドリ科 6 種、シギ科 13 種その他、セイタカシギ科のセイタカシギやカモメ科のコアジサシ等が確認された。これらの鳥類の大半が渡り鳥であり、ムナグロ、セイタカシギ等の旅鳥や夏鳥のコアジサシが、渡りの途中で夢洲へ飛来したものと考えられる。また、ツクシガモやオカヨシガモ等のカモ類は冬鳥とされているが、越冬個体の一部が飛去せずにとどまっていたものと考えられる。

2024（令和 6）年の現地調査において確認した重要な種のうち、営巣又は繁殖等が確認された万博会場内のコアジサシ、コチドリ、シロチドリ及びセイタカシギ、万博会場外のコチドリ、セッカについては、以下のとおり対応した。

- ・コアジサシ及びシロチドリについては、つながりの海の南東部エリアの砂れき地で営巣及び抱卵を確認したことから、抱卵を確認した地点付近を保全エリアとし、立入禁止の措置を実施した。
- ・セイタカシギについては、つながりの海の南西部と南東部エリアで抱卵及び繁殖を確認したが、南西部エリアは本事業の期間中に土地の改変が行われない場所であったため、現状維持に努めるとともに、南東部エリアは抱卵を確認した地点付近を保全エリアとし、立入禁止の措置を実施した。
- ・コチドリについては、万博会場外の裸地での営巣及び抱卵と、つながりの海の南東部エリアの砂れき地での抱卵を確認したことから、万博会場外においては不要な立ち入り等がないよう関係者へ周知するとともに、南東部エリアは他の重要な種と同様に、抱卵を確認した地点付近を保全エリアとして立入禁止の措置を実施した。
- ・セッカについては、万博会場外の草地において、頻繁にセッカが出入りする等の繁殖に係る行動及び営巣を確認したことから、不要な立ち入り等がないよう、関係者へ周知した。

今後の工事の実施にあたっては、営巣等が確認された場合は関係者と連携しながら適切に対応するとともに、可能な限り鳥類への影響を低減するよう努める。

以上のことから、建設工事中における鳥類への配慮については、適切な対応と評価する。

引き続き、可能な限り鳥類の生息環境に配慮するよう努める。

表 6.2(1) 事後調査結果（建設工事中・2024）と評価書との確認状況（夢洲）

No.	目名	科名	種名（和名）	渡り区分	建設工事中		評価書		
					2024(令和6)年 4月～7月	重要な種	2020(令和2)年 4月～7月	重要な種	
1	カモ	カモ	ツクシガモ	冬鳥	3	●			
2			オカヨシガモ	冬鳥	8		31		
3			ヨシガモ	冬鳥	7	●			
4			ヒドリガモ	冬鳥	6		7		
5			マガモ	冬鳥	13	●	4	●	
6			カルガモ	留鳥	484		283		
7			ハシビロガモ	冬鳥	35		182		
8			オナガガモ	冬鳥	6		2		
9			シマアジ	旅鳥			5	●	
10			コガモ	冬鳥	21		244		
11			ホシハジロ	冬鳥	16		49		
12			キンクロハジロ	冬鳥	43		78		
13			スズガモ	冬鳥	2		745		
14	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	26		57		
15	ハト	ハト	キジバト	留鳥	9		21		
16	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	61		222		
17	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	17		48		
18			ダイサギ	留鳥			1		
19			コサギ	留鳥	2				
20		トキ	ヘラサギ	迷鳥	1	●			
21	ツル	クイナ	ヒクイナ	留鳥			1	●	
22			バン	留鳥	1		5		
23			オオバン	留鳥	2	●	19	●	
24	チドリ	チドリ	ケリ	留鳥	32	●	3	●	
25			ムナグロ	旅鳥	6	●			
26			コチドリ	留鳥	62	●	68	●	
27			シロチドリ	留鳥	85	●	78	●	
28			メダイチドリ	旅鳥	62	●	31	●	
29			オオメダイチドリ	旅鳥	3	●			
30			セイタカシギ	セイタカシギ	旅鳥	85	●	3	●
31			シギ	タシギ	冬鳥			1	●
32			オオソリハシギ	旅鳥	8	●	1	●	
33			チュウシャクシギ	旅鳥	10	●	14	●	
34			アカアシシギ	旅鳥	1	●			
35			アオアシシギ	旅鳥	12	●	10	●	
36		キアシシギ	旅鳥	46	●	56	●		
37		ソリハシギ	旅鳥	10	●	12	●		
38		イソシギ	留鳥	3	●	12	●		
39		キョウジョシギ	旅鳥	10	●	12	●		
40		トウネン	旅鳥	129	●	139	●		
41		オジロトウネン	冬鳥			1	●		
42		ウズラシギ	旅鳥	2	●	4	●		
43		サルハマシギ	旅鳥	1	●				
44		ハマシギ	冬鳥	1082	●	343	●		
45		アカエリヒレアシシギ	旅鳥	1		4			
46		ツバメチドリ	ツバメチドリ	旅鳥			8	●	
47		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	58		253		
48			ウミネコ	留鳥	59	●	28	●	
49			セグロカモメ	冬鳥	7		10		
50			コアジサシ	夏鳥	1094	●	456	●	
51		タカ	ミサゴ	留鳥	3	●	8	●	
52			タカ	トビ	留鳥	4		5	
53			チュウヒ	冬鳥			1	●	
54	フクロウ	フクロウ	コミミズク	冬鳥		1	●		
55	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	4	●	6	●	
56			ハヤブサ	留鳥			2	●	

- 注：1. 分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。
 2. 科、亜科、属、上種としたもののうち、他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。
 3. 渡り区分は「大阪府鳥類目録2016」（(財)日本野鳥の会大阪支部、平成28年）に準拠した。
 4. 表中の数字は、調査期間中の総確認例数である。
 5. 評価書は「春季」、「繁殖前期」、「繁殖後期」、「夏季」の調査結果である。

表 6.2(2) 事後調査結果（建設工事中・2024）と評価書との確認状況（夢洲）

No.	目名	科名	種名（和名）	渡り区分	建設工事中		評価書		
					2024(令和6)年 4月～7月	重要な種	2020(令和2)年 4月～7月	重要な種	
57	スズメ	モズ	モズ	留鳥	1		1		
58		カラス	ハシボソガラス	留鳥	21		34		
59			ハシブトガラス	留鳥	22		63		
60			ツリスガラ	冬鳥			2		
61			ヒバリ	留鳥	27	●	122	●	
62			ツバメ	夏鳥	41		124		
63			ヒヨドリ	留鳥	3		2		
64			ヨシキリ	夏鳥	3	●	8	●	
65			セッカ	留鳥	59	●	125	●	
66			ムクドリ	留鳥	32		444		
67			ヒタキ	冬鳥	2		21		
68			スズメ	留鳥	76		151		
69			セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	39		46	
70				タヒバリ	冬鳥	9		10	
71		アトリ	カワラヒワ	留鳥	8		41		
72		ホオジロ	アオジ	冬鳥			3	●	
73	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	移入種	30		124		
74	スズメ	ムクドリ	ハッカチョウ	移入種			1		
-		11目30科74種		-	10目26科62種		11目29科66種		

- 注：1. 分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。
 2. 科、亜科、属、上種としたもののうち、他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。
 3. 渡り区分は「大阪府鳥類目録2016」（財）日本野鳥の会大阪支部、平成28年）に準拠した。
 4. 表中の数字は、調査期間中の総確認例数である。
 5. 評価書は「春季」、「繁殖前期」、「繁殖後期」、「夏季」の調査結果である。

(2) 舞洲万博 P&R 駐車場

① 陸域動物（鳥類の飛来状況）

事後調査結果（建設工事中・2024）と評価書との確認状況は表 6.3 に示すとおりである。

舞洲万博 P&R 駐車場にて 2024（令和 6）年 4 月～7 月（春季～夏季）に実施した現地調査において、31 種の鳥類の飛来があり、うち 13 種の重要な種が確認された。評価書では同時期の調査で、舞洲万博 P&R 駐車場にて 49 種の鳥類の飛来があり、うち 21 種の重要な種を確認していた。建設工事中に確認された重要な種では、13 種のうち 12 種が評価書の同時期調査と重複するとともに、シギ科のアオアシシギの 1 種が事後調査にて新たに確認された。

また、建設工事中の調査により確認され、かつ種類が多かった種群はスズメ目であり、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ及びウグイス等 15 種、次にチドリ目がケリ、チュウシャクシギ、ウミネコ及びコアジサシ等 7 種が確認された。

今後の工事の実施においても、関係者と連携しながら適切に対応するとともに、可能な限り鳥類への影響を低減するよう努める。

以上のことから、建設工事中における鳥類への配慮については、適切な対応と評価する。

引き続き、可能な限り鳥類の生息環境に配慮するよう努める。

表 6.3 事後調査結果（建設工事中・2024）と評価書との確認状況（舞洲）

No.	目名	科名	種名（和名）	渡り区分	建設工事中		評価書		
					2024(令和6)年 4月～7月	重要な種	2020(令和2)年 4月～7月	重要な種	
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	5		10		
2			コガモ	冬鳥			1		
3			ホシハジロ	冬鳥			4		
4	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	2				
5	ハト	ハト	キジバト	留鳥	5		17		
6	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	24		99		
7	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	6		13		
8			ダイサギ	留鳥			5		
9	ツル	クイナ	オオバン	留鳥	7	●	2	●	
10	チドリ	チドリ	ケリ	留鳥	6	●	3	●	
11			コチドリ	留鳥	1	●	1	●	
12			シギ	チュウシャクシギ	旅鳥	23	●	13	●
13		アオアシシギ		旅鳥	1	●			
14		キアシシギ		旅鳥	1	●	1	●	
15		イソシギ		留鳥			7	●	
16		キョウジョシギ		旅鳥			1	●	
17		カモメ		ウミネコ	留鳥	29	●	3	●
18			セグロカモメ	冬鳥			4		
19			コアジサシ	夏鳥	8	●	79	●	
20			タカ	ミサゴ	留鳥	1	●	1	●
21		タカ		トビ	留鳥		4		
22		ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	1	●	3	●
23		スズメ	モズ	モズ	留鳥			4	
24			カラス	ハシボソガラス	留鳥	8		22	
25				ハシブトガラス	留鳥	44		57	
26			シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	4		1	
27			ヒバリ	ヒバリ	留鳥			23	●
28			ツバメ	ツバメ	夏鳥	23		105	
29	ヒヨドリ		ヒヨドリ	留鳥	24		92		
30	ウグイス		ウグイス	留鳥	2		2		
31			ヤブサメ	夏鳥			3		
32	ムシクイ		エゾムシクイ	旅鳥			2	●	
33			センダイムシクイ	夏鳥	1	●	1	●	
34	メジロ		メジロ	留鳥	1		13		
35	ヨシキリ		オオヨシキリ	夏鳥	1	●	1	●	
36	セッカ		セッカ	留鳥	1	●	10	●	
37	ムクドリ		ムクドリ	留鳥	69		208		
38			コムクドリ	旅鳥			2	●	
39	ヒタキ		ツグミ	冬鳥	6		67		
40			イソヒヨドリ	留鳥			3		
41			コサメビタキ	旅鳥一部夏鳥			1	●	
42			キビタキ	夏鳥			1	●	
43		オオルリ	夏鳥			1	●		
44	スズメ	スズメ	留鳥	36		254			
45	セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	5		21			
46		タヒバリ	冬鳥			1			
47	アトリ	カワラヒワ	留鳥	6		33			
48		イカル	留鳥			1			
49	ホオジロ	ホオジロ	留鳥			1			
50		アオジ	冬鳥			8	●		
51	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	移入種	13		105		
-	10目29科51種			-	10目25科31種		9目28科49種		

- 注：1. 分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。
 2. 科、亜科、属、上種としたもののうち、他種と重複する可能性があるものについては、種数の合計から除外した。
 3. 渡り区分は「大阪府鳥類目録2016」（（財）日本野鳥の会大阪支部、平成28年）に準拠した。
 4. 表中の数字は、調査期間中の総確認例数である。
 5. 評価書は「春季」、「繁殖前期」、「繁殖後期」、「夏季」の調査結果である。

7. 環境保全のために講じた措置

7.1 建設工事中の環境保全のための措置とその履行状況（抜粋）

評価書に記載した建設工事中の環境保全のための措置のうち動物に係る環境保全措置とその履行状況は、表 7.1 に示すとおりである。

（対象期間:2023（令和5）年10月～2024（令和6）年9月）

なお、表中の網掛けしている項目については、今回の報告対象外とする。

表 7.1(1) 建設工事中の環境保全のための措置とその履行状況

項目	環境保全措置	履行状況
動物・植物・生態系（1）	<p>【工事中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事関係者の工事区域外への不要な立ち入りを防止する。 ・騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。 ・夜間工事を行う場合には、工事を最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外に生息・生育する動植物への影響を可能な限り低減する。 ・夢洲1区の内水面付近は、2025年度末まで、草刈りなどの対策を大阪市等と調整し実施することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。 ・ウォーターワールド内の沈殿池は地盤改良工事の予定がなく、浅場や羽休め等の休息の場として鳥類の利用が可能であると考えられる。また、ウォーターワールドの南東部は、工事で移動させた底質土砂の一部等を大阪市と連携し適切な場所に戻し、水位を回復させることで浅場となり、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。 <p>・重要な植物のヒトモトススキ及びカワツルモについては、土地の改変等の予定がない地点に大阪市が移植を実施した。土地貸与後の工事開始前に会場内において生育状況の確認を行い、生育が確認された場合は有識者の指導に基づき移植など適切な対応を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工事関係者が工事区域外へ不要に立ち入らないよう、施工業者との調整会議等を用いて周知を行った。 ・施工業者には、ガイドライン等により、建設機械は可能な限り低騒音・低振動型の導入に努めることを周知し、現地にて実際に使用していることを確認した。 ・道路上等での工事のため、やむを得ず一部夜間工事を行ったが、照明器具の適正配置等、可能な限り動植物への影響の低減に努めた。また、夜間工事を行う際は、工事を最小限にとどめるなど、可能な限り動植物への影響を低減するよう、適切に対応した。なお、対象期間中の舞洲万博 P&R 駐車場での夜間工事は実施していない。 ・「8.2 鳥類への配慮状況」に記載のとおり、夢洲1区の内水面付近において、裸地を利用する鳥類への配慮として草刈りを行い、裸地の形成に努めるとともに、コアジサシの誘引策として、デコイを設置する等、対応した。 ・つながりの海（旧ウォーターワールド）内の沈殿池は、万博事業に係る整備工事が行われないエリアであることから、この間、水辺（水面・水際部）を利用する鳥類の羽休め等の利用可能な場所と想定している。また、水辺を利用する鳥類への配慮として、万博会場内南東側の一角に造成した雨水溜めの活用やつながりの海が水域化する期間に水際部を好む鳥類の飛来場所の代替地として、夢洲内で自然に形成された水溜まりを、2025年度末頃までの間、利用可能な場所として確保した。 <p>・ヒトモトススキ及びカワツルモについては会場予定地における工事着手前調査では、生育は確認されなかった。</p>

表 7.1(2) 建設工事中の環境保全のための措置とその履行状況

項目	環境保全措置	履行状況
動物・植物・生態系(2)	<ul style="list-style-type: none"> 重要な植物のコガマ及びカワヂシャは、工事開始前に生育状況の確認を行い、生育が確認された場合は有識者の指導に基づき採取して標本として保存する。 ハマボウ、ホソバノハマアカザ及びウラギクについては、土地貸与後の工事開始前に生育状況の確認を行い、生育が確認された場合には有識者の指導に基づき、適切な対応を行う。 (仮称) 舞洲駐車場予定地の工事では、カヤネズミを予定地周辺の生息可能な場所へ移動させるため、工事開始前の草刈りを行う際に草地の中央付近から周辺へ進め、作業を複数回に分けて実施する。 コアジサシについては会場予定地内及び(仮称)舞洲駐車場予定地内において飛来が確認された場合には、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」に基づき、防鳥ネットによる被覆等の営巣防止対策を実施する。また、営巣が確認された場合には、付近を原則立入禁止とする等、配慮、対策を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事着手前調査にてコガマが確認された会場予定地内の地点は、工事による土地改変等を行う場所であったため移植等を検討したが、夢洲内に適当な移植先がなかったことから、有識者からの意見を参考に、標本として保存した。また、カワヂシャの生育は確認されなかったが、評価書作成時の本種の確認地点周辺の工事において、生育状況を確認した場合は適切に対応する。 工事着手前調査では、ハマボウとウラギクの生育を確認したが、ハマボウは、会場予定地外であり、本事業の期間中に土地の改変等は行われない場所であった。また、ウラギクは、会場予定地内のつながりの海(旧ウォーターワールド)として整備される場所であったため移植等を検討したが開花期が過ぎたため、大阪市において、有識者立会の下、種子を含むと考えられる土砂を本事業の期間中に土地の改変が行われない場所へ移植する措置を行ったことから、その後の状況確認を大阪市と連携しつつ実施していく。ホソバノハマアカザの生育は確認されなかったが、評価書作成時に本種を確認した地点周辺の工事において、生育状況を確認した場合は適切に対応する。 舞洲万博 P&R 駐車場での工事開始前の草刈りを行う際、カヤネズミを周辺の生育可能な草地等に移動させるため、作業を複数回に分け、草地に向かって段階的に草刈りを実施した。 2024(令和6)年6月に万博会場内でコアジサシの営巣及び抱卵を確認したことから、抱卵を確認した地点付近を保全エリアとし、立入禁止の措置を実施した。今後も引き続き、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針(環境省)」に基づき、適切に対応する。

表 7.1(3) 建設工事中の環境保全のための措置とその履行状況

項目	環境保全措置	履行状況
動物・植物・生態系 (3)	<p>【供用時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し、適切な維持管理を行う。 ・適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外に生息・生育する動植物への影響を可能な限り低減する。 ・グリーンワールドや静けさの森には緑地を確保することにより動物が利用できるよう検討する。 ・夢洲1区の内水面付近は、2025年度末まで、草刈りなどの対策を大阪市等と調整し実施することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。 ・ウォーターワールドの沈殿池は、地盤改良工事の予定がなく、浅場や羽休め等の休息の場として鳥類の利用が可能と考えられる。また、ウォーターワールドの南東部は、工事で移動させた底質土砂の一部等を大阪市と連携し適切な場所に戻し、水位を回復させることで浅場となり、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。 	

7.2 履行状況写真



写真1 低公害型ステッカーのある建設機械



写真2 施工業者間での調整会議の様子



写真3 工事着手前調査（哺乳類）



写真4 カヤネズミの球巣



写真5 工事着手前調査（鳥類）



写真6 建設工事中の事後調査（鳥類）

8. 市長意見及びその履行状況

8.1 市長意見に対する事業者の見解及びその履行状況（抜粋）

評価書で示した市長意見に対する事業者の見解と、その履行状況は表 8.1 に示すとおりである。

表 8.1 市長意見に対する事業者の見解及び履行状況

市長意見	事業者の見解	履行状況
<p>動物・生態系</p> <p>夢洲では多様な鳥類が確認されていることから、専門家等の意見を聴取しながら、工事着手までにこれら鳥類の生息・生育環境に配慮した整備内容やスケジュール等のロードマップを作成し、湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること。</p>	<p>夢洲の会場整備にあたっては、会場内だけでなく会場外も含め、次のとおり、浅場や砂れき地、緑地等のそれぞれの場において可能な限り鳥類の生息・生育環境に配慮するよう努めます。</p> <p>ウォーターワールド内の沈殿池は、地盤改良の予定がなく、浅場や羽休め等の休息の場として鳥類の利用が可能と考えられます。また、ウォーターワールドの地盤改良後には、大阪市と連携し、底質土砂の一部等を戻し、水位を回復することで浅場となり、水辺を利用する鳥類が利用できるよう努めます。</p> <p>夢洲 1 区の内水面付近は、2025 年度末まで、草刈りの実施などの対策を大阪市等と調整し、裸地の形成に努めます。加えて、会場予定地内においても、今後の工事スケジュールの具体化に伴い、利用可能な場所の確保について検討していきます。</p> <p>静けさの森やグリーンワールドは 2022 年度に設計を行い、その後樹木等を確保し、工事着手する予定です。静けさの森は、現在は約 1ha の広さで計画しており、高木を含めた木々で、一定の緑量を確保する計画です。また、ウォーターワールド南西部の沈殿池内には、現在も植物が生育しており、植物の生育環境が維持されるよう、できる限り配慮していきます。</p> <p>なお、それぞれの場における鳥類の生息・生育環境の配慮については、施工場所や工事スケジュール等の具体化に合わせ、適宜ホームページ等において公表していきます。</p>	<p>夢洲で確認されている多様な鳥類の生息・生育環境に配慮した、利用可能な場所等については、整備内容や工事スケジュール等の具体化に合わせ、万博会場内だけでなく万博会場外も含め、可能な限り鳥類への配慮場所を検討し、ホームページに公表しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023（令和 5）年 5 月 裸地を利用する鳥類への配慮（p35～37 資料 1） ・2023（令和 5）年 10 月 緑地・樹木を利用する鳥類への配慮（p38～39 資料 2） ・2024（令和 6）年 4 月 コアジサシなど裸地を利用する鳥類への配慮（p40～41 資料 3） ・2024（令和 6）年 12 月 水辺（水面・水際部）を利用する鳥類への配慮（p42～43 資料 4） ・2024（令和 6）年 12 月 緑地・樹木を利用する鳥類への配慮（p44～45 資料 5） <p>引き続き、万博会場内外で可能な限り鳥類の生息環境に配慮していきます。</p>

8.2 鳥類への配慮状況

多様な鳥類の生息環境への配慮としては、施工場所や工事スケジュール等の具体化に合わせ、下記のとおりホームページで実施状況を情報発信している。

- ・2023年度コアジサシや裸地を利用する鳥類への配慮について（2023（令和5）年5月）[資料1]
- ・緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について（2023（令和5）年10月）[資料2]
- ・コアジサシなど裸地を利用する鳥類への配慮について（2024（令和6）年4月）[資料3]
- ・水辺（水面・水際部）を利用する鳥類への配慮について（2024（令和6）年12月）[資料4]
- ・緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について（2024（令和6）年12月）[資料5]

また、建設工事中の事後調査において確認された重要な種のうち、営巣や抱卵等を確認したコアジサシ、セイタカシギ、コチドリ、シロチドリ及びセッカについては、周辺への立入禁止等の措置を行うなど、可能な限りの生息環境への配慮に努めた。

【参考】



写真1 コアジサシの抱卵



写真2 セイタカシギの抱卵



写真3 コチドリの営巣



写真4 セッカの営巣

※重要な種は保護の観点から確認位置図を掲載しないため、保全エリア等も掲載しないこととした。

2023年度コアジサシや裸地を利用する鳥類への配慮について

夢洲の会場整備にあたり、2023年度のコアジサシや裸地を利用する鳥類への配慮として、次のとおり可能な限り鳥類の生息・生育環境に配慮するよう努めます。

現時点における2023年度のコアジサシや裸地を利用する鳥類が利用可能な場所について、図1に候補地を、図2にスケジュールを示します。

- 会場予定地外では、夢洲1区内水面の西側の区域（図1の①）を候補地とし、コアジサシの要対応時期（4月末から8月中旬）となる前に、過去、夢洲内でコアジサシ等が利用した時期と類似環境となるよう草刈りを行い、裸地の形成に努めるとともに、当該区域での鳥類の利用状況の調査も実施します。
- 会場予定地内では、整備内容や施工計画等を精査した結果、裸地として平面利用が可能な会場予定地北西部の図1の②の区域は、2023年度のコアジサシの要対応時期に、工事等が予定されていないことが確認できたため、当該区域もコアジサシや裸地を利用する鳥類が利用可能な候補地となります。

引き続き、関係者等と調整を行い、会場予定地内外で裸地の確保等に努め、可能な限り鳥類の生息・生育環境に配慮していきます。

また、会場予定地内で、コアジサシの飛来等が確認された場合は、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針（環境省）」に基づいた対応を行うよう、各工事区域の統括施工管理者に対して周知しております。

なお、会場予定地南西部の図1の③の「つながりの海」内にある沈殿池の区域につきましては、地盤改良等の予定がないため、引き続き水辺を利用する鳥類が利用可能な場所としておりますが、水辺や緑地等を利用する鳥類への配慮については、整備スケジュールの具体化に合わせて、関係者等と調整の上、引き続き検討を行い、適宜ホームページ等で公表します。



図1 裸地を利用する鳥類の利用可能な候補地 (2023年度)

場所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コアジサシ 要対応時期		[斜線表示]										
会場予定地外 ①		[黒い棒状表示] 利用可能										
会場予定地内 ②	[黒い棒状表示] 利用可能						[縦線表示]	[縦線表示]	[縦線表示]	[縦線表示]	[棒状表示] 土地造成・建築工事	

図2 裸地を利用する鳥類が利用可能な候補地スケジュール（2023年度）

（参考）環境影響評価書 [令和4年6月]

位置	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
コアジサシ 要対応時期 (4月末～8月中旬)	[斜線表示]	[斜線表示]	[斜線表示]	[斜線表示]
1区内水面の 西側		[黒い棒状表示] 利用可能		
駐車場等 (平面利用)	[黒い棒状表示] 利用検討			
		[縦線表示] 舗装等 整備	[斜線表示] 大阪・関西 万博開催	[棒状表示] 解体工事
				[黒い棒状表示] 利用検討

図3 利用可能な場所（裸地等）の候補地スケジュール

緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について

夢洲の会場整備にあたり、緑地・樹木を利用する鳥類への配慮として、次のとおり様々な植栽等を行うことにより、鳥類の生息等が可能な環境の確保に努めます。

会場予定地内での主な緑地整備の場所を図1に、整備スケジュールを図2に示します。

- 夢洲及びその周辺で見られる鳥類が、一時的なとまりや休息として利用可能な場所となるよう、会場中心部（図1の①）に、関西の里山を構成する在来種を中心とした高木約1,500本や下草など、夢洲の環境に適した樹種を植栽し、広さ約2.3haの「静けさの森」を整備します。
- ヒバリ、セッカなど、開放的な空間や草地を好む鳥類が飛来可能な場所となるよう、会場予定地の西部（図1の②）では、盛土後の法面約1.8haに芝系を中心とした種子の吹き付けを行い、緑地を確保します。
- 「静けさの森」や会場予定地の西部以外の場所においても、会場内全体で花き類や植栽帯の配置等を計画し、緑量の確保に努めます。
- 会場予定地の南西部に位置する「つながりの海」内にある沈殿池（図1の③）は、大阪市が土地造成を行うために水位を一時的に下げたことで、水域部分の一部が陸域化し、湿地帯が形成されたことで植物等が生育するようになり、シギ・チドリ類などの鳥類が好んで生息等できる環境となっているため、2024年度後半までは現状の維持に努めます。
この場所は、万博開催前の2024年度後半からは水位を上げるにより水域化しますが、万博終了後の2025年度後半から再度水位を下げるため、現在と同様の環境になる予定です。

以上のとおり、緑地・樹木を確保する計画・整備を順次進めることで、これらの場所が鳥類においても、一時的なとまりや休息等に利用可能な環境となるよう努めていきます。

なお、大阪市の計画では、万博が終了し解体工事等を終えた後、夢洲1区（図1の④）等を緑地として将来利用する予定です。

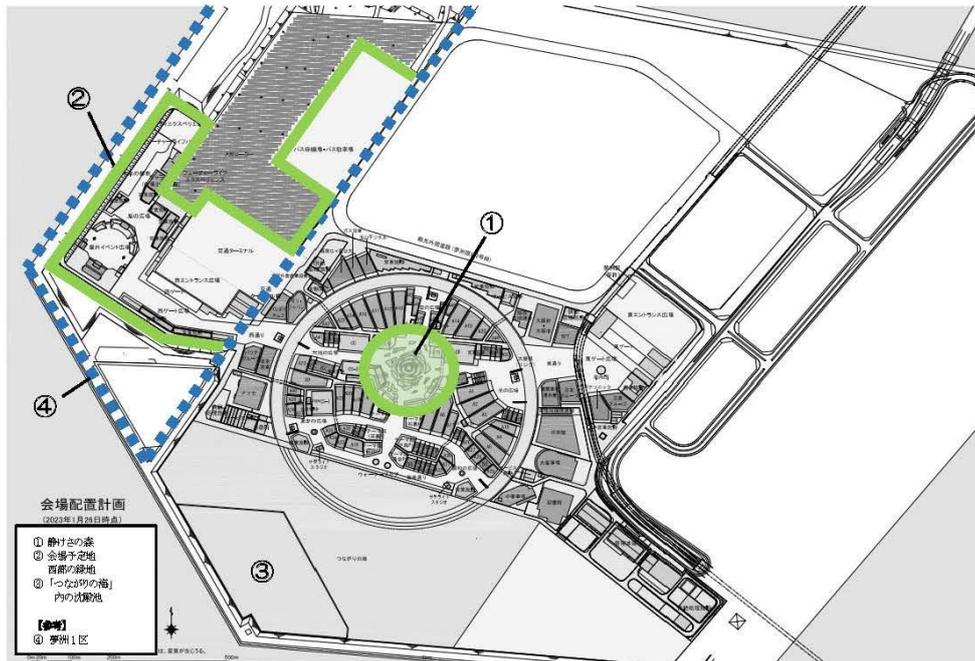


図1 緑地・樹木等の配置図

位置	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
① 静けさの森	盛土工事等	植栽工事等	利用可能	移植工事等
② 会場予定地 西部の緑地※1	盛土工事等	植栽工事等	大阪・関西 万博開催	
③ 「つなごりの海」内の沈殿池 ※2	利用可能			利用可能

※1 環境影響評価書では「グリーンワールド」と表記

※2 環境影響評価書では「沈殿池等」と表記

図2 緑地・樹木の整備計画(スケジュール) (2023年10月時点)

コアジサシなど裸地を利用する鳥類への配慮について

夢洲の会場整備にあたり、コアジサシや裸地（砂れき地等）を利用する鳥類への配慮として、次のとおり可能な限り鳥類の生息環境に配慮するよう努めます。

2024年度から2026年度の間、コアジサシや裸地（砂れき地等）を利用する鳥類が利用可能な場所について、図1に候補地を、図2にスケジュールを示します。

- **会場予定地外**では、夢洲1区内水面の西側の区域（図1の①）を候補地とし、コアジサシの要対応時期（4月から8月中旬）となる前に草刈りを行い、裸地の形成に努めるとともに、当該区域での鳥類の利用状況の調査も実施します。
また、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針（環境省）」等を参考に、コアジサシの誘引策として、草刈り後の裸地にデコイを設置します。

- **会場予定地内**では、建設工事の本格化に伴い、大阪・関西万博の会期終了後までは、裸地として平面利用が可能な場所はありません。
なお、会期終了後、解体工事に移行し、会場内に更地区域が増加した際は、平面利用が可能となる場所として適宜状況を確認し、裸地を利用する鳥類が利用可能となる候補地の検討に努めます。

引き続き、関係者等と調整を行い、会場予定地内外での確保等に努め、可能な限り鳥類の生息環境に配慮していきます。

また、各工事区域の統括施工管理者に対して、会場予定地内でコアジサシの飛来等が確認された場合は、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針（環境省）」に基づいた対応を周知しております。

水辺（開放水面・水際部）を利用する鳥類への配慮については、つながりの海への海水の引き入れが開始されるまでの間は、沈殿池（図1の②）が候補地となりますが、開催中の候補地は、関係者等と調整のうえ、適宜ホームページ等で情報発信します。

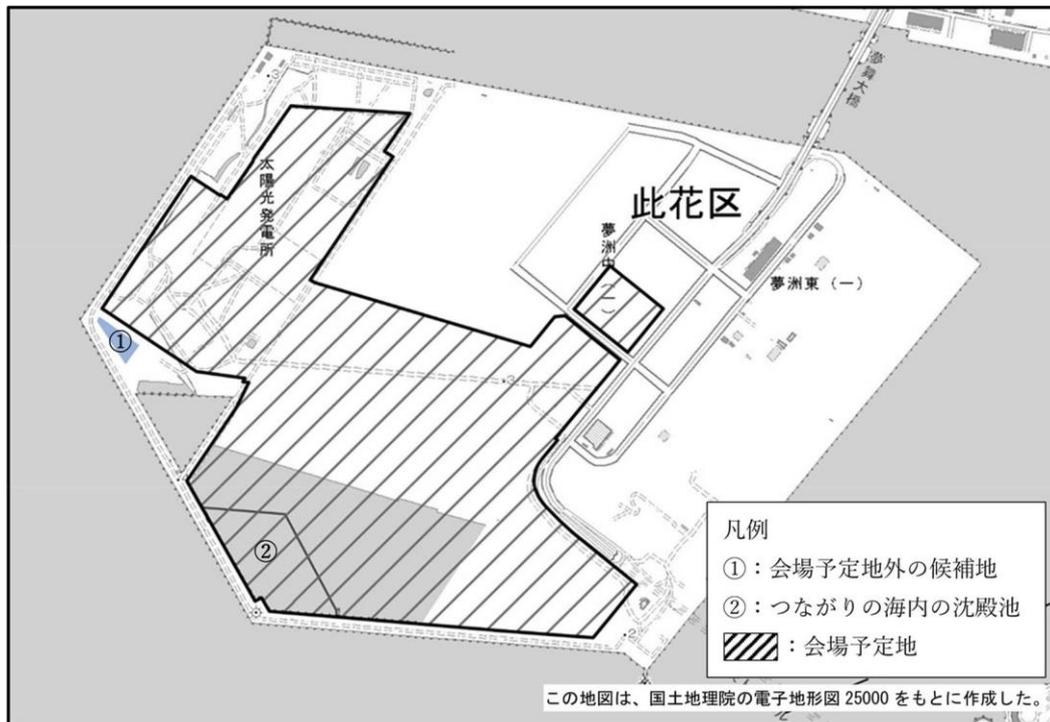


図1 裸地を利用する鳥類の利用可能な候補地（2024～2026年度）

場所	2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度
コアジサシ 要対応時期 （4月～8月中頃）	繁殖期	繁殖期	繁殖期
会場予定地内 （会期終了後まで裸地等 の候補地なし）	建設工事等	大阪・関西 万博 開催	解体工事等 （更地区域より利用検討）
会場予定地外 の候補地① （裸地（砂れき地）等）	利用可能		
	草刈り等	草刈り等	埋立施設

図2 裸地を利用する鳥類が利用可能な候補地スケジュール（2024～2026年度）

資料3(2) コアジサシなど裸地を利用する鳥類への配慮について

水辺（水面・水際部）を利用する鳥類への配慮について

夢洲の万博会場整備にあたり、水辺（水面・水際部）を利用する鳥類への配慮として、次のとおり可能な限り鳥類の生息環境に配慮するよう努めます。

水辺を好む鳥類の飛来可能な場所を図1に、スケジュールを図2に示します。

- **大屋根リング内側の南側水面「ウォータープラザ」**（図1の①）においては、万博会期中に水を使用したイベント等が行われるため、鳥類の利用には適していません。
- **万博会場南西部に位置する「つながりの海」**（図1の②、③）は、万博会期中に水面でのイベントや来場者の出入り等がないため、鳥類の利用可能な場所とします。
 - ・ **大屋根リング外側②**では、整備工事及び万博閉幕後の解体工事等を行う際は、一時的に水位を下げることから、鳥類が飛来する場所には適さないエリアになると想定しますが、開催前の2024年度の冬頃から海水を引き入れ水域化する期間は、水面を好むカモ類などの羽休め等の利用可能な場所とします。
 - ・ **大屋根リング外側の沈殿池③**は、万博事業に係る整備工事等が行われないエリアであることから、この間、水辺（水面・水際部）を利用する鳥類の羽休め等の利用が可能な場所としています。なお、海水を引き入れて水域化する期間は水面を好む水鳥の利用可能な場所としますが、万博閉幕後は海水を放流して原状復帰後、大阪市に返還します。
- **万博会場内南東側の一角**（図1の④）においては、新たに造成した雨水等の一時貯留場所を活用することで、水辺（水面・水際部）を好む鳥類が利用可能な場所としますが、万博閉幕後は解体工事等に移行し、原状復帰後、大阪市に返還します。
- **万博会場外の水溜まり環境**（図1の⑤、⑥、⑦）は、つながりの海を水域化する期間に水際部を好む鳥類の飛来場所の代替地として、夢洲内で雨水等によって自然に形成された水溜まりの場所を鳥類が利用可能な場所として、2025年度末頃までの間、確保します。これらの水際部はシギ・チドリ類、水面はカモ類などの飛来場所として、利用可能な場所とします。

引き続き、万博会場内外で可能な限り鳥類の生息環境に配慮して参りますが、万博閉幕後は解体工事等に移行し、原状復帰されたエリアより大阪市に返還します。

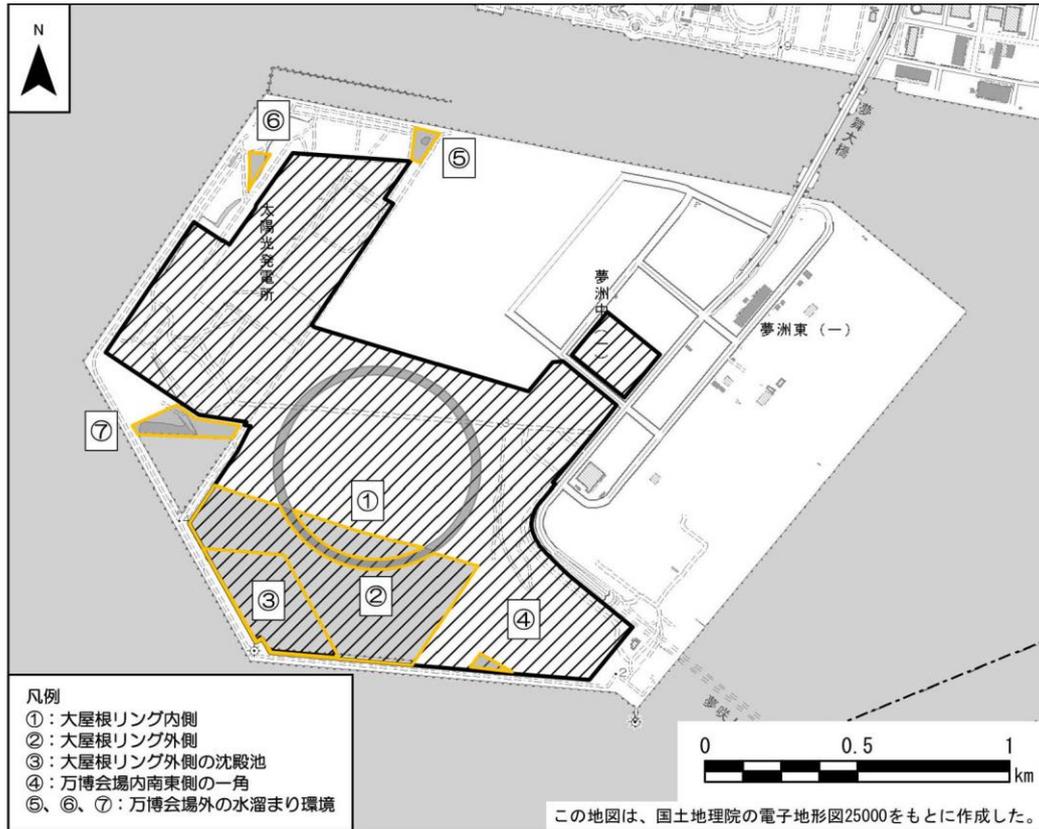


図1 水辺を好む鳥類の飛来可能な場所

場所（候補地）	2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度
万博会場内の水辺		海水の引き入れ期間 放水	
大屋根リング内側 ①	建設工事等	イベント準備等 大阪・関西万博開催	解体工事等
大屋根リング外側「つながりの海」			
沈殿池以外 ②	建設工事等	水面として利用可能	解体工事等
沈殿池 ③	水辺（水面・水際部）として利用可能	水辺（水面）	
万博会場内南東側の一角 ④	整備工事等	水際部として利用可能	解体工事等
万博会場外水溜まり環境 ⑤、⑥、⑦		水辺（水面・水際部）として利用可能	

※ ①～④については、原状復帰されたエリアより大阪市に返還

図2 水辺に関連するスケジュール

資料4(2) 水辺（水面・水際部）を利用する鳥類への配慮について

緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について

夢洲の万博会場整備にあたり、緑地・樹木を利用する鳥類への配慮として、次のとおり様々な植栽等を行うことにより、鳥類の生息等が可能な環境の確保に努めます。

万博会場内での主な緑地整備の場所を図1に、整備スケジュールを図2に示します。

- 夢洲及びその周辺で見られる鳥類が、一時的なとまりや休息として利用可能な場所となるよう、会場中心部（図1の①）に、関西の里山を構成する在来種を中心とした高木約1,500本や下草など、夢洲の環境に適した樹種を植栽し、広さ約2.3haの「静けさの森」を整備しますが、万博閉幕後は移植工事等に移行します。
- ヒバリ、セッカなど、開放的な空間や草地を好む鳥類が飛来可能な場所となるよう、万博会場の西部（図1の②）では、盛土後の法面約1.8haに芝系を中心とした種子の吹き付けを行い、緑地を確保します。
- 「静けさの森」や万博会場の西部以外の場所においても、会場内全体で花き類や植栽帯の配置等を計画し、緑量の確保に努めます。
- 万博会場の南西部に位置する「つながりの海」内にある沈殿池（図1の③）は、大阪市が土地造成を行うために水位を一時的に下げたことで、水域部分の一部が陸域化し、湿地帯が形成されたことで植物等が生育するようになり、シギ・チドリ類などの鳥類が好む環境となっていることから、海水を引き入れるまでは現状の維持に努めて参りますが、万博閉幕後は海水を放流して原状復帰後、大阪市に返還します。

以上のとおり、万博閉幕までの間、緑地・樹木についての整備・維持に努めることで、これらの場所が鳥類においても、一時的なとまりや休息等に利用可能な環境となるよう努めて参ります。

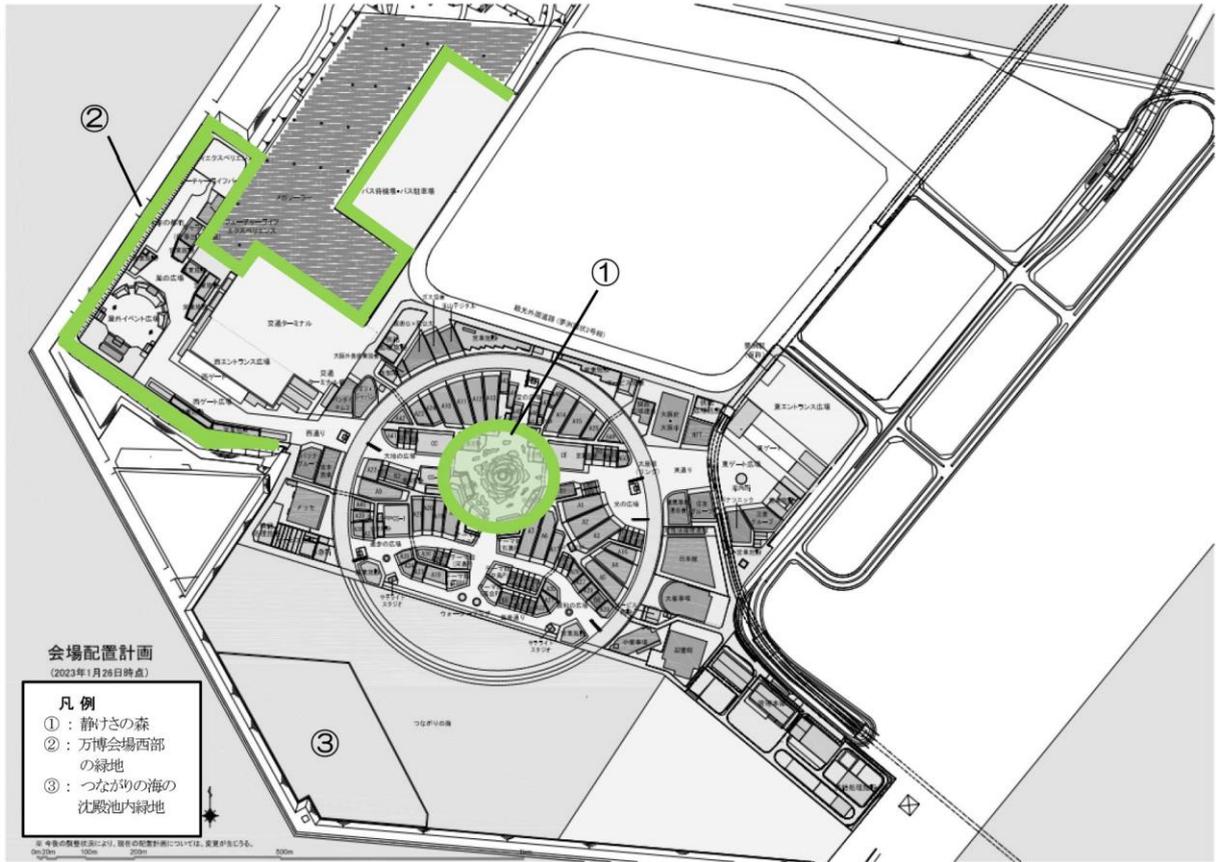


図1 緑地・樹木等の配置図

場所(候補地)	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度
① 静けさの森	植栽工事等	大阪・関西万博開催	移植工事等
	鳥類が利用可能		
② 万博会場西部の緑地(※1)	植栽工事等	大阪・関西万博開催	
	鳥類が利用可能		
③ つながりの海の沈殿池内緑地(※2)	鳥類が利用可能	海水の引き入れ期間	(※3)
		放流	

- ※1 環境影響評価書では「グリーンワールド」と表記
- ※2 環境影響評価書では「WW沈殿池等」と表記
- ※3 原状復帰されたエリアより大阪市に返還

図2 緑地・樹木の整備スケジュール

資料5(2) 緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について

【参考】鳥類への配慮状況



写真1 裸地形成の草刈り



写真2 デコイの設置状況



写真3 デコイの設置状況（拡大）



写真4 法面の緑化



写真5 静けさの森



写真6 南東部の雨水溜め

測量法に基づく国土地理院長承認（複製）R 6JHF 260

本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。